

McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

17

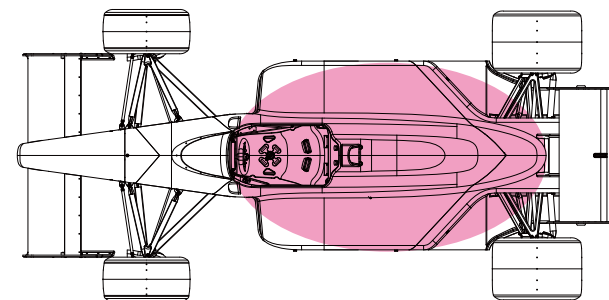
マクラーレン ホンダ
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを
内部機構まで完全再現！















Mission 63 エキゾーストパイプを取り付ける

今号は、メインボディにモノコックボトムプレートやアンダーパネルなどを仮組みし、メインボディをさらに肉付けする。そのほか、エンジンブロックにエキゾーストパイプやターボチャージャーの各パーツを取り付け、排気周りのディテールを実車に近づけていく。



今号のパーツ

- ① エレクトリックシステムパーツA

- ② エレクトリックシステムパーツB-5

- ③ エレクトリックシステムパーツB-2

- ④ エレクトリックシステムパーツB-6

- ⑤ CDIユニット

- ⑥ エレクトリックシステムパーツB-3

- ⑦ エレクトリックシステムパーツB-1

- ⑧ エレクトリックシステムパーツB-4

- ⑨ テレメーターユニット

- ⑩ ワイヤーB (Φ0.56×300ミリ)

- ⑪ ワイヤーC (Φ0.8×600ミリ)

- ⑫ ワイヤーD (Φ0.9×300ミリ)


※①～⑨はHIPS (スチロール樹脂)製

今号提供のエレクトリックシステムは、構成する各パーツの細かい塗装だけでなく、異なる太さのワイヤー（ケーブル）で配線することにより、実車のメカニカルなディテールを再現している。また、CDIユニットは、実車の部品と同様にHONDAのロゴを金型で表現している。

◀MP4/4のエレクトリックシステム

今号で使用する道具

- ・プラスドライバー (00番) ※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラスドライバー (0番) ※22号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・瞬間接着剤・マスキングテープ・つまようじ
- ・カッター・カッティングマット

用意するもの

- ・アンダーパネル(後)(前) ※49号、56号で組み立て
- ・モノコックボトムプレート(後) ※56号で保管
- ・ターボチャージャー(左)(右) ※58号、59号で組み立て
- ・メインボディ ※61号で組み立て
- ・エキゾーストパイプ(左前)(右前)(左後内)(右後内)(左後外)(右後外) ※62号で組み立て
- ・ビスG (2.0×6P-TP BK)×2
- ・ビスJ (1.4×6P-M BK)×4

ポイント

エキゾーストパイプの取り付け向き

●エキゾーストパイプは、エンジンブロックに取り付けると写真のような向きになる。各パーツの上下や取り付け向きを確認しておくとうい。

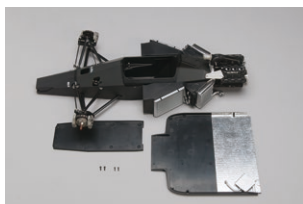


In Focus

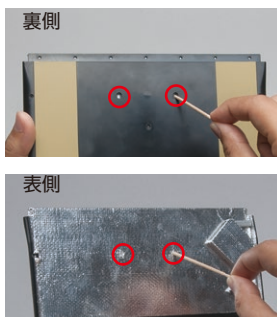
1

メインボディにモノコックボトムプレート(後)とアンダーパネル(前)を仮留めする

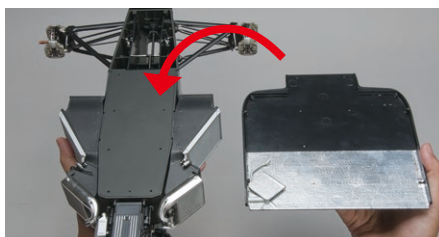
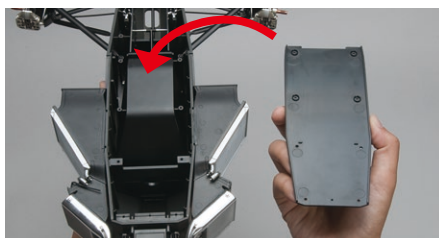
● 56号で使用したアンダーパネル(前)と保管したモノコックボトムプレート(後)、61号で組み立てたメインボディ、ビスG×2、ビスJ×2を用意する。



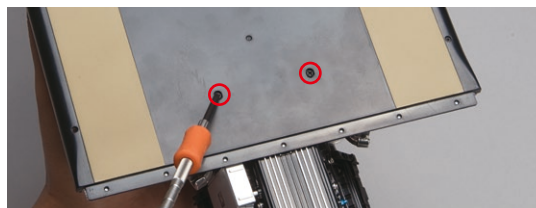
● アンダーパネル(前)の赤丸で示したビス穴2カ所はシルバーラベルでふさがっているのので、位置が分かるように裏側からつまようじの先で少し穴を開けてから、表側から穴を開ける。



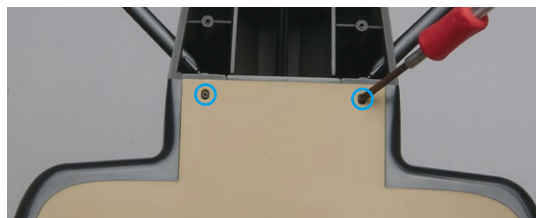
● メインボディにモノコックボトムプレート(後)を組み合わせる。さらにアンダーパネル前を組み合わせる。



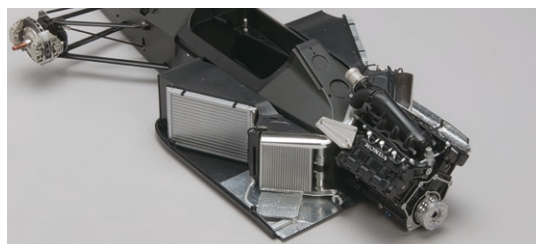
● アンダーパネルがはずれないよう押さえながら、赤丸で示したビス穴2カ所にビスGをそれぞれ差し、プラスドライバー(0番)で締める。



● アンダーパネルの青丸で示したビス穴2カ所にビスJをそれぞれ差し、プラスドライバー(00番)で締める。



● メインボディにモノコックボトムプレート(後)とアンダーパネル(前)が仮留めされた。



2

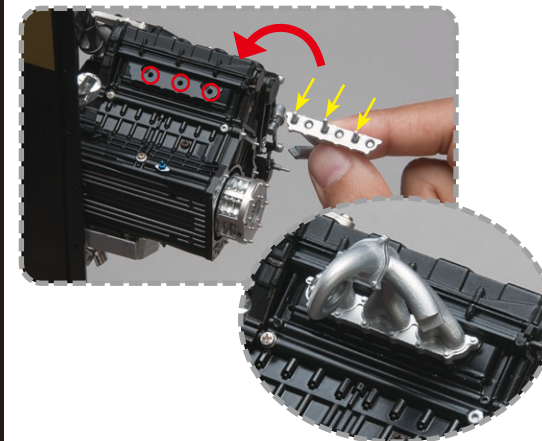
エンジンブロックにエキゾーストパイプ(左前)(右前)、ターボチャージャー(左)(右)を取り付ける

● 58号と59号で組み立てたターボチャージャー(左)(右)と62号で組み立てたエキゾーストパイプ(左前)(右前)を用意する。

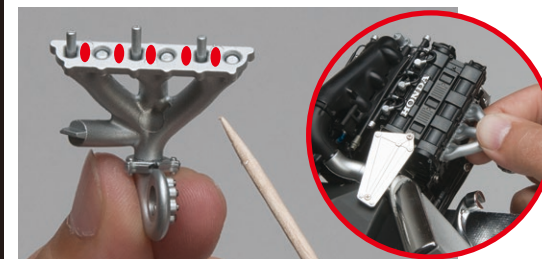


《仮組み》

エンジンブロックの左側面にある赤丸で示した穴に、エキゾーストパイプ(左前)の黄色い矢印で示した突起を組み合わせるの、確認する。



● エキゾーストパイプ(左前)の赤で示した部分に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、確認したようにエンジンブロックに組み合わせて、1分ほど押さえる。

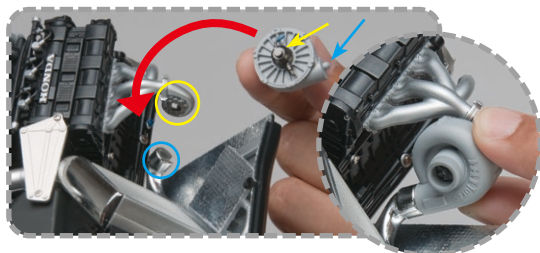


● エンジンブロックにエキゾーストパイプ(左前)が取り付けられた。



《仮組み》

エキゾーストパイプ(左前)の黄色い丸で示した部分とインタークーラーの青丸で示した部分、ターボチャージャー(左)の黄色と青い矢印で示した部分、それぞれ同色を組み合わせるので、確認する。



●ターボチャージャー(左)の赤で示した突起の付け根(全周)に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量つけ、仮組みしたように組み合わせて、1分ほど押さえる。



■インタークーラーと組み合わせる部分は、完成後に着脱する部分になるので接着はせず、はめ込むだけにします。

●エンジンプロックの左側面にエキゾーストパイプ(左前)とターボチャージャー(左)が取り付けられた。



●同様の作業をして、エンジンプロックの右側面にエキゾーストパイプ(右前)とターボチャージャー(右)を取り付ける。



3

エンジンプロックにエキゾーストパイプ(左後内)(右後内)(左後外)(右後外)を取り付け、アンダーパネル(後)をメインボディに仮留めする

●49号で組み立てたアンダーパネル(後)、62号で組み立てたエキゾーストパイプ(左後内)(右後内)(左後外)(右後外)、ビスJ×2を用意する。



●アンダーパネル(後)の赤丸で示したビス穴2カ所はシルバーラベルでふさがっているので、裏側からつまようじの先で少し穴を開けて位置が分かるようにしてから、表側から穴を開ける。



●エキゾーストパイプ(左後内)の先を、アンダーパネル(後)の赤丸で示したテールパイプエンドプレートの穴に組み合わせる。

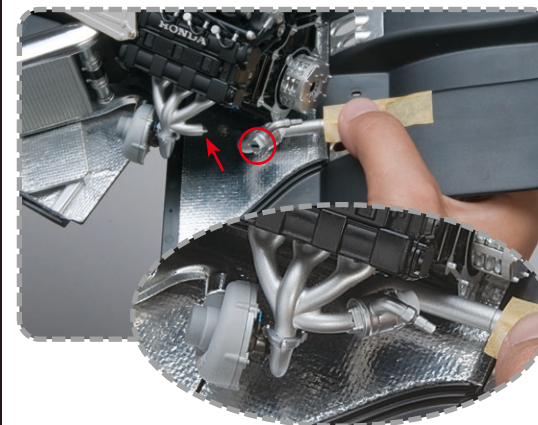


●4センチほどにカットしたマスキングテープで、エキゾーストパイプ(左後内)を仮留めする。

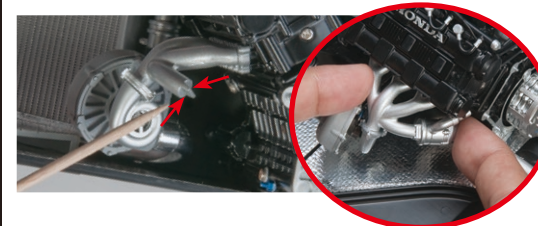


《仮組み》

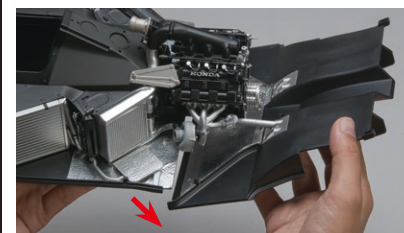
赤矢印で示したエキゾーストパイプ(左前)の突起と、エキゾーストパイプ(左後内)の赤丸で示した穴の形状を合わせながら、アンダーパネル(前)(後)を組み合わせ、接着面を確認する。



●エキゾーストパイプ(左前)の赤矢印で示した突起の付け根に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量つけ、仮組みしたように組み合わせたら、マスキングテープをはがし、1分ほど押さえる。



●接着が確認できたら、テールパイプエンドプレートの部分を中心にアンダーパネル(後)を赤矢印のように下げて外す。



- エキゾーストパイプ(左前)に(左後内)が接続された。



- エキゾーストパイプ(右後内)は、左右を見分けるために残したランナー部分を赤線で切り離す。



- 同様の作業をして、エキゾーストパイプ(右前)と(右後内)を接続する。



- エキゾーストパイプ(左後外)を、アンダーパネル(後)の赤丸で示したテールパイプエンドプレートの穴に組み合わせる。

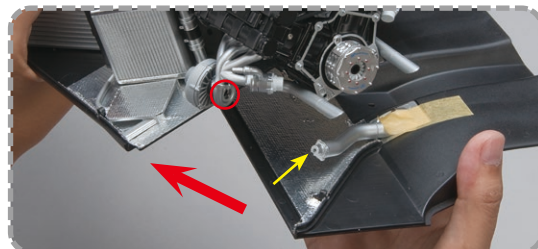


- 4センチほどにカットしたマスキングテープで、エキゾーストパイプ(左後外)を仮留めする。

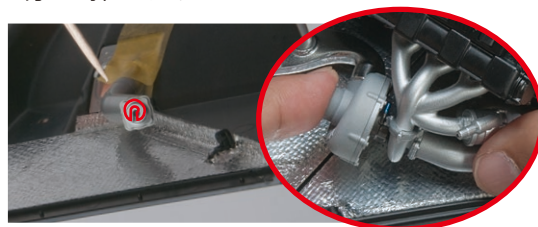


《仮組み》

エキゾーストパイプ(左前)の赤丸で示した穴と、エキゾーストパイプ(左後外)の黄色い矢印で示した突起の形状を合わせながら、アンダーパネル(前)(後)を組み合わせ、接着面を確認する。



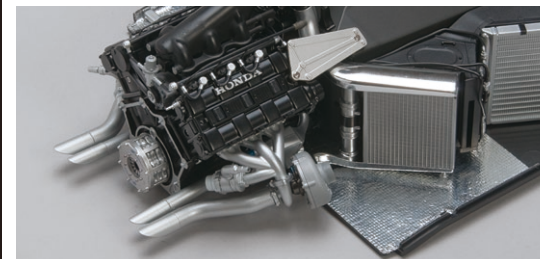
- エキゾーストパイプ(左後外)の赤枠で示した部分に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量つけ、仮組みしたように組み合わせたら、マスキングテープをはがし、1分ほど押さえる。



- 接着されたことを確認したら、テールパイプエンドプレートの部分を中心にアンダーパネル(後)を下げるようにして外す。エキゾーストパイプ(左前)にエキゾーストパイプ(左後外)が接続された。



- 同様の作業をして、エキゾーストパイプ(右前)と(右後外)を接続する。



- 再びアンダーパネル(後)を組み合わせ、赤丸で示したビス穴2カ所にビスJをそれぞれさし、プラスドライバー(00番)で締める。



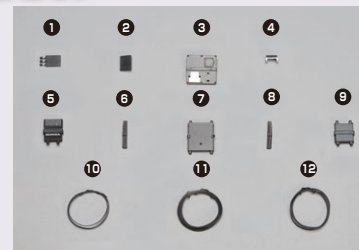
今号の完成



今号は、メインボディにモノコッククボトムプレート(後)、アンダーパネル(前)(後)を仮留めし、エンジンブロックにターボチャージャー(左)(右)、エキゾーストパイプ(左前)(右前)(左後内)(右後内)(左後外)(右後外)を取り付けた。

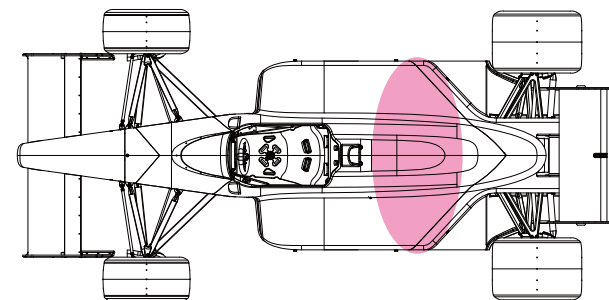
保管パーツ

今号で使用しなかった今号提供の全パーツは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



Mission 64 エンジンを組み立てる⑧

今号はまず、ターボインレットダクトの組み立てを完成させ、メインボディに仮組みして、最終的に装着する位置を確認する。次に、メインボディから取り外したエンジンブロックにホースを取り付けて形を整える。



今号のパーツ

- ① インストルメントパネル(後) ② インストルメントパネル(前)



ランナーパーツ

- ③ データレジストボタン(緑) ⑤ 消火器ボタン ⑦ スイッチ(2P) ⑨ スイッチ(3P)
 ④ データレジストボタン(黒) ⑥ ブレーキバランスアジャスター ⑧ ラジオコントロールスイッチ

- ⑩ ミクスチャー/ブーストコントロール

- ⑪ フューエルフィルターバルブ

- ⑫ フューエルフィルターバルブハウジング

- ⑬ ギアリンクージベアリングハウジング

- ⑭ インストルメントパネルラベル



※①～⑬はHIPS(スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラスドライバー(00番)
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラスドライバー(0番)
※22号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・瞬間接着剤 ・ピンセット ・つまようじ
- ・カッター ・カッティングマット

用意するもの

- ・ターボインレットダクト(左)(右) ※20号で組み立て
- ・ホースB ※47号で使用
- ・ワイヤーA ※51号で使用
- ・ウェイトゲートパイプ(左前)(右前) ※56号で提供
- ・ウェイトゲートパイプ×2 ※56号で提供
- ・メインボディ ※63号で組み立て

ポイント

小さなパーツの取り扱いについて

- 今号で提供されたランナーパーツの③④データレジストボタン(緑)(黒)、⑤消火器ボタン、⑥ブレーキバランスアジャスター、⑦スイッチ(2P)、⑧ラジオコントロールスイッチ、⑨スイッチ(3P)と、⑩ミクスチャー/ブーストコントロールは、非常に小さなパーツなので、それぞれ取り付け作業をするごとに切り離すようにするなど、紛失しないよう取り扱いには十分注意する。



マシンの状態をドライバーに伝えるインストルメントパネルには、車を操作するのに必要な各装置のスイッチ類などが集中している。本モデルでは、パネル表面の質感にこだわり、実車のパネル表面の凹凸と同様の凹凸を金型を使用して表現し、細かなスイッチは別パーツとして配置。さらにプレート類はラベルを貼ることで、ディテールを再現している。

◀MP4/4のインストルメントパネル

In Focus

1

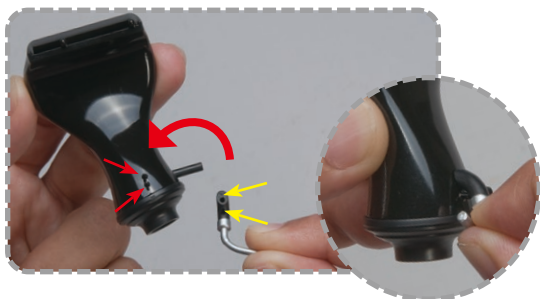
ターボインレットダクト(左)(右)に、ウェイトゲートパイプ(左前)(右前)とウェイトゲートパイプを取り付ける

- 20号で組み立てたターボインレットダクト(左)(右)、56号で提供されたウェイトゲートパイプ(左前)(右前)、ウェイトゲートパイプ×2を用意する。



《仮組み》

左右を見分けるためにターボインレットダクト(左)に貼った「L」と書かれたマスキングテープをはずし、赤矢印で示したふたつの突起に、ウェイトゲートパイプ(左前)の黄色い矢印で示したふたつの穴を組み合わせ、接着面を確認する。



- ターボインレットダクト(左)の赤矢印で示した突起の先端に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、仮組みしたようにウェイトゲートパイプ(左前)を合わせて、1分ほど押さえる。



《仮組み》

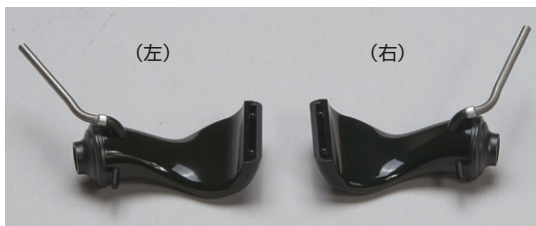
ウェイトゲートパイプ(左前)の赤矢印で示した突起の先端に、ウェイトゲートパイプを奥まで差し込み、接着面を確認する。



- ウェイトゲートパイプ(左前)の赤矢印で示した付け根に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、仮組みしたようにウェイトゲートパイプを組み合わせ、1分ほど押さえる。



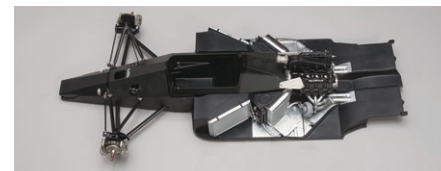
- 同様の作業をして、ターボインレットダクト(右)にウェイトゲートパイプ(右前)とウェイトゲートパイプを取り付ける。ターボインレットダクト(左)(右)ができた。



2

メインボディにターボインレットダクト(左)(右)を仮組みする

- 63号で組み立てたメインボディを用意する。

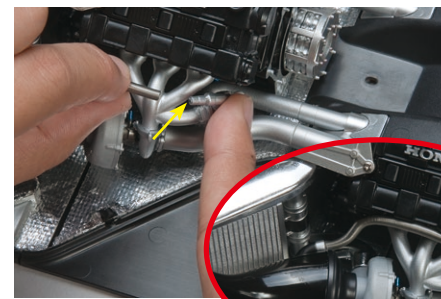


- メインボディの左側面の赤丸と黄色丸で示した部分に、ターボインレットダクト(左)の赤矢印と黄色い矢印で示した部分、それぞれ同色で組み合わせる。



- まず赤色の部分を組み合わせ、次に黄色い部分を組み合わせる。

- ターボインレットダクト(左)に接続されているウェイトゲートパイプの先を、エキゾーストパイプに取り付けたウェイトゲートの黄色い矢印で示した先に差し込む。



●同様の作業をして、メインボディの右側面にターボインレットダクト(右)を組み合わせ、ウェイトゲートパイプをエキゾーストパイプに取り付けたウェイトゲートの先(黄色い矢印で示した部分)に差し込む。



●今回は仮組みのため、ターボインレットダクト(左)(右)は取り外しておく。

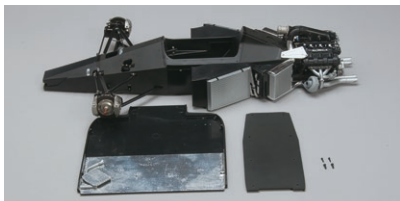
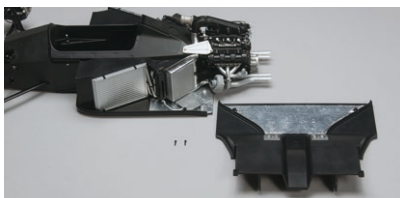


■ターボインレットダクト(左)(右)の表面は傷つきやすいため、取り外した際には、ティッシュペーパーなど、やわらかいものの上に置いて保管する。

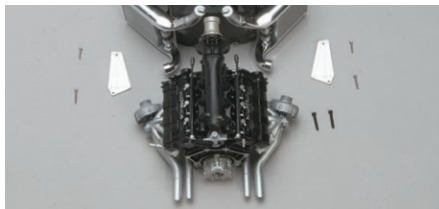
3

メインボディから、アンダーパネル(後)(前)、モノコックボトムプレート(後)、エンジンブロックを外す

●メインボディにアンダーパネル(後)を取り付けているビスJ×2をプラスドライバー(00番)で外し、次にアンダーパネル(前)とモノコックボトムプレート(後)を取り付けているビスJ×2とビスG×2も、プラスドライバー(00番)と(0番)で外す。



●さらにエンジンマウントプレートを取り付けているビスK×2、ビスL×2、モノコックとエンジンブロックを留めているビスH×2を、それぞれプラスドライバー(00番)と(0番)で外す。



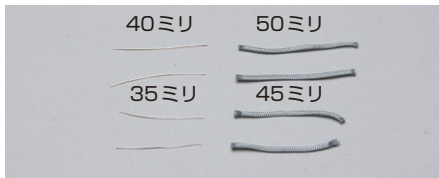
4

エンジンブロックにホースBを取り付ける

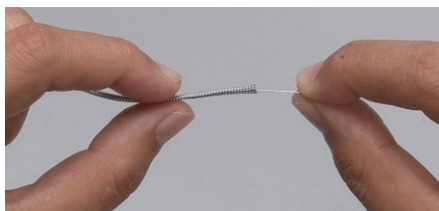
●47号で使用したホースB、51号で使用したワイヤーAを用意する。



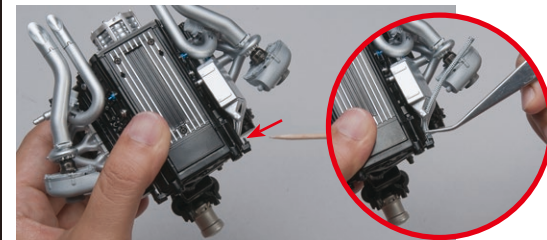
●ホースBを40号を参照しながら50ミリの長さ(2本)、45ミリの長さ(2本)、ワイヤーAを30号を参照しながら40ミリの長さ(2本)、35ミリの長さ(2本)、カットする。



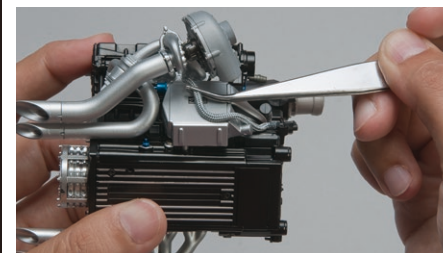
●50ミリのホースBには40ミリのワイヤーA、45ミリのホースBには35ミリのワイヤーAをそれぞれ通しておく。



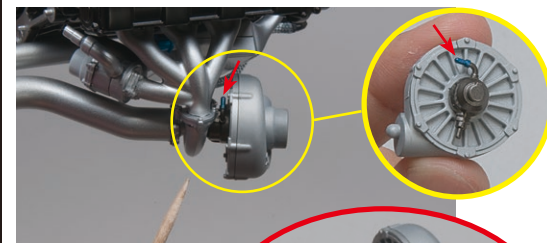
●エンジンブロックの右側面の赤矢印で示した突起に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、40ミリのワイヤーを通した50ミリのホースBを差して、1分ほど押さえる。



●ワイヤーAが飛び出さないように注意しながら、水冷式オイルクーラーの形に合わせて、ホースBの形を整える。



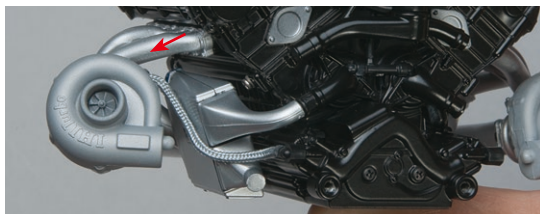
●ターボチャージャー(右)にある赤矢印で示した青色の突起の先端に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、エンジンブロックに取り付けたホースBの反対側の端を、青色の突起に差し込み、1分ほど押さえる。



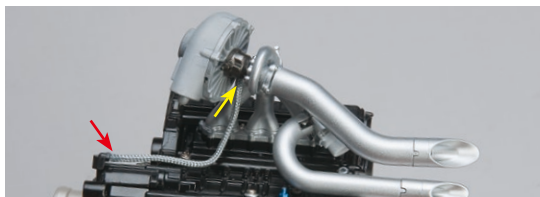
■赤丸の中は下から見た図。



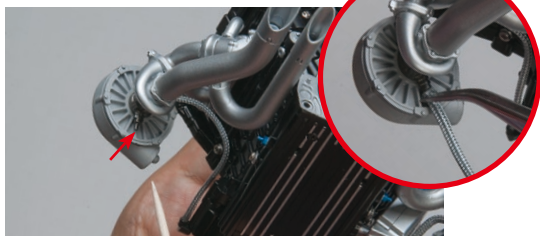
- 接続したホースBが赤矢印で示したエキゾーストパイプに接触しないよう形を整える。



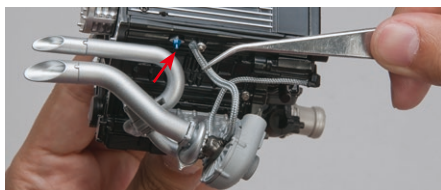
- 同様の作業をして、エンジンブロックの左側面にある赤矢印で示した突起と、ターボチャージャー(左)の黄色い矢印で示した青色の突起に、ホースBを取り付ける。



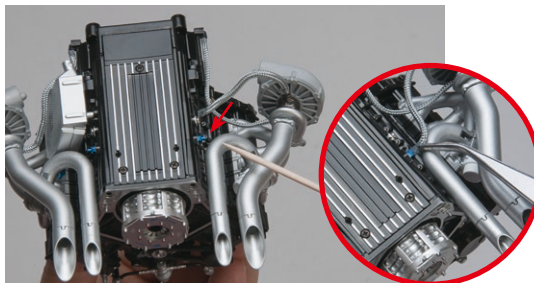
- ターボチャージャー(左)の赤矢印で示した突起の先端に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、35ミリのワイヤーを通した45ミリのホースBを差して、1分ほど押さえる。



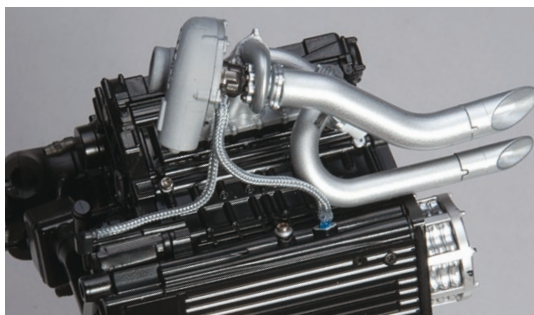
- ワイヤー Aが飛び出さないように注意しながら、エンジンブロックの左側面にある赤矢印で示した青色の突起に向けて、ホースBの形を整える。



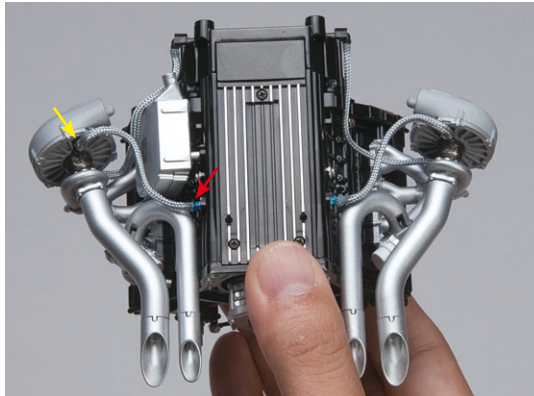
- エンジンブロックの左側面にある赤矢印で示した青色の突起の先端に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、ターボチャージャー(左)に取り付けたホースBの反対側の端を差し込み、1分ほど押さえる。



- ターボチャージャー(左)の突起とエンジンブロック左側面にある青色の突起にホースBが取り付けられた。



- 同様の作業をして、ターボチャージャー(右)の黄色い矢印で示した突起とエンジンブロック右側面にある赤い矢印で示した青色の突起にホースBを取り付ける。



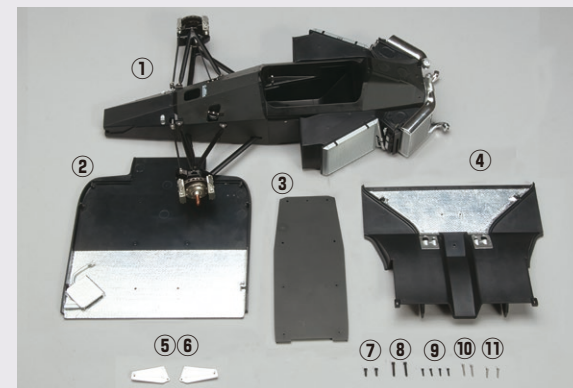
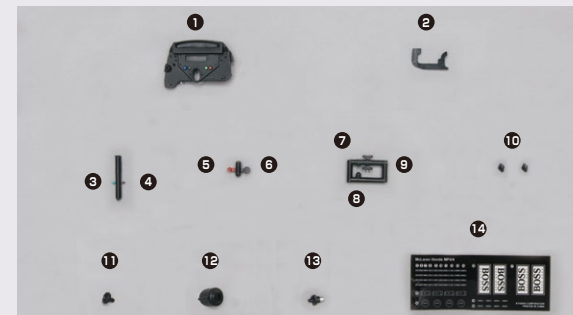
今号の完成



ターボインレットダクト(左)(右)にウェイトゲートパイプ(左前)(右前)とウェイトゲートパイプを取り付け、エンジンブロックにホースBを4本取り付けました。

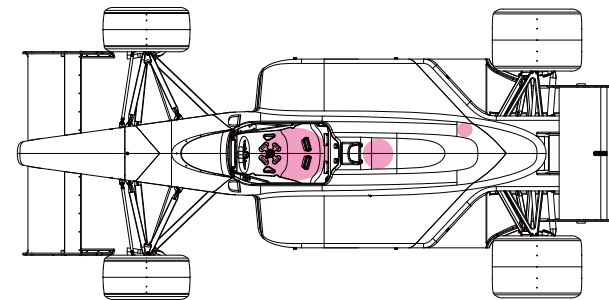
保管パーツ

今号で提供され、使用しなかった全てのパーツと、今号で取り外した①メインボディ、②アンダーパネル(前)、③モノコックボトムプレート(後)、④アンダーパネル(後)、⑤⑥エンジンマウントプレート(左)(右)、⑦ビスG、⑧ビスH、⑨ビスJ、⑩ビスK、⑪ビスLは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



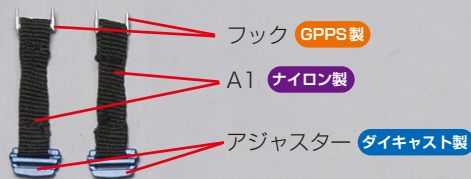
Mission 65 シートベルトを組み立てる

今号ではまず、レーシングマシンで特徴的な4点式のシートベルトを組み立てる。さらにメインボディにフューエルフィルターバルブやフューエルフィルターバルブハウジング、ギアリンケージベアリングハウジングを取り付け、メインボディを完成に近づけていく。



今号のパーツ

① シートベルトA1 × 2



② シートベルトA 2/3



⑤ シートベルトB × 2



⑥ メインバックル
ダイキャスト製



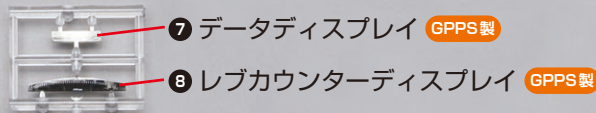
③ シートベルトC
× 2 (ナイロン製)



④ 5ミリ幅
両面テープ
(約100ミリ)



ランナーパーツ



※ GPPSは透明なスチロール樹脂を使用

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤・マスキングテープ・カッター・定規
- ・カッティングマット・ピンセット・つまようじ

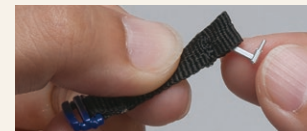
用意するもの

- ・メインボディ ※64号で使用
- ・インストルメントパネルラベル ※64号で提供
- ・フューエルフィルターバルブ ※64号で提供
- ・フューエルフィルターバルブハウジング ※64号で提供
- ・ギアリンケージベアリングハウジング ※64号で提供

ポイント

シートベルトとフックの表裏の見分け方について

- ① シートベルトA1、② A2/3、③ C、⑤ Bは折り返して縫ってあるので、赤矢印で示した端のある方が裏となる。また、①シートベルトA1のフックは、赤点線で示した部分が写真のように傾斜するのが正しい向きだ。向きが違う場合や外れた場合は、破損しないよう注意しながら付け直そう。



レースマシンのシートベルトは、4点式でドライバーの身体を支えている。本モデルのシートベルトは、バックルやアジャスターなどに金属を使用し、ベルトもナイロンを縫製するなど、見た目だけでなく、手に持った感触までこだわっている。そのほかに、データディスプレイは透明なパーツの裏側から塗装することによりクリアな質感を表現し、レブカウンターディスプレイの回転数の目盛りはタンポ印刷により再現している。

◀MP4/4のシートベルト

In Focus

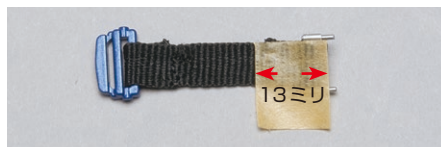
1 シートベルトA2/3にメインバックルを装着し、A、B、Cを接続する

- 64号で提供されたインストルメントパネルラベルを用意し、外側の白い線に沿って(白い線を入れないように)⑰と⑱のラベルを赤線のように切り抜く。



- ラベルの部分だけに刃を入れて、裏の剥離紙は切り抜かない。各1枚は予備。

- 13ミリの長さでカットしたマスキングテープを用意し、①シートベルトA1の1本の表に、写真のようにフックがついている側のベルトの端に合わせて貼る。



- 貼ったマスキングテープに合わせて、切り抜いたラベル⑰を写真のように貼る。シートベルトA1(左)ができた。



- ベルトのアジャスターは左にあり、ラベルの文字も読める向きになる。

- もう1本のシートベルトA1を表にして、アジャスターを右に置いてから、左側と同様の作業をして、文字が読める向きにラベル⑱を貼る。シートベルトA1(右)ができた。

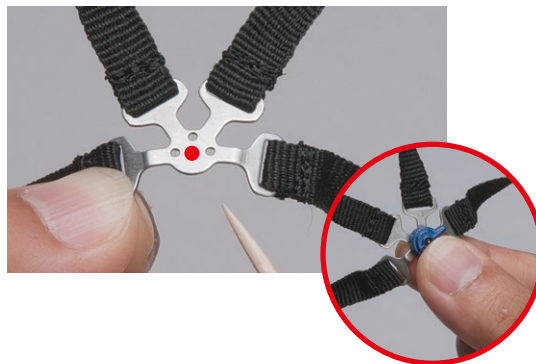


《仮組み》

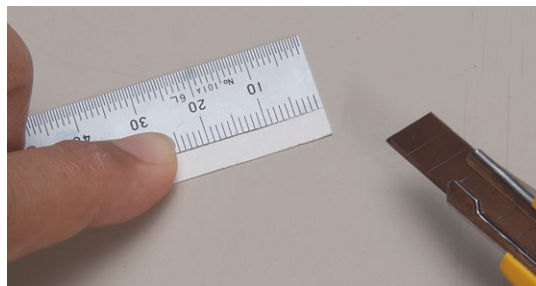
- ② シートベルトA2/3を表にし、青矢印で示した3つの穴に、⑥メインバックルの黄色い矢印で示した3つの突起を組み合わせ、接着面を確認する。



- シートベルトA2/3の赤で示した部分に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、仮組みしたようにメインバックルを合わせて、1分ほど押さえる。



- ④ 5ミリ幅両面テープを、4ミリの長さ2枚と、5ミリの長さ2枚にカットする。

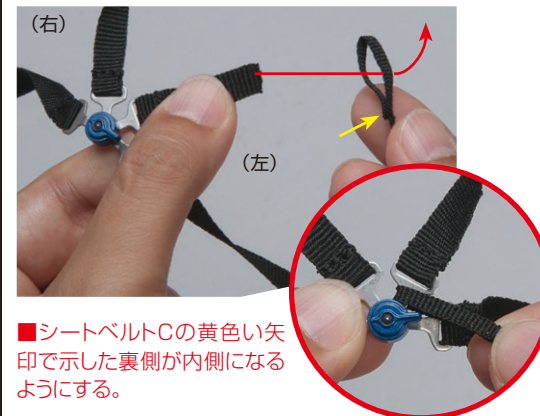


- ⑤ シートベルトB×2の裏側のベルトの端に、4ミリの長さでカットした5ミリ幅両面テープを貼っておく。



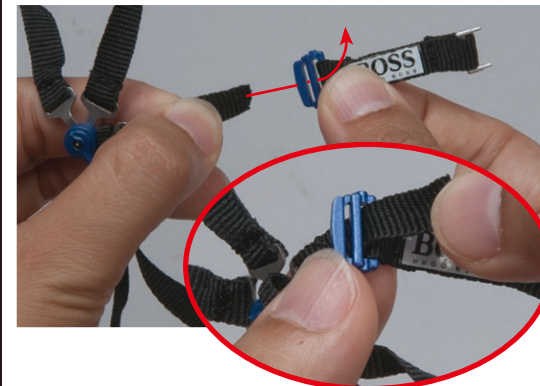
- 剥離紙はまだはがさないでおく。

- ③ シートベルトCの輪になっている部分に、シートベルトA2/3の左上のベルト(A2)を通し、そのままメインバックルの根元まで通す。

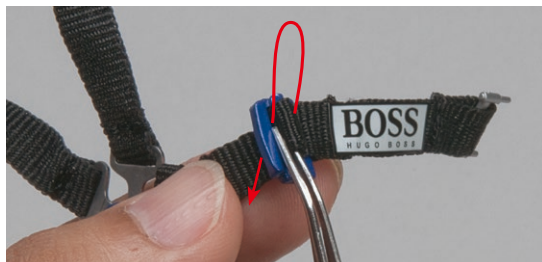


- シートベルトCの黄色い矢印で示した裏側が内側になるようにする。

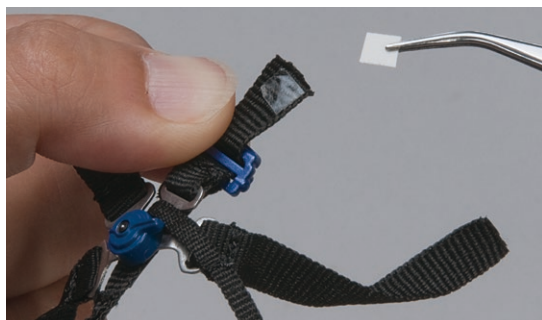
- シートベルトCを通したA2の先を、シートベルトA1(左)のアジャスターの内側の穴に裏側から通す。



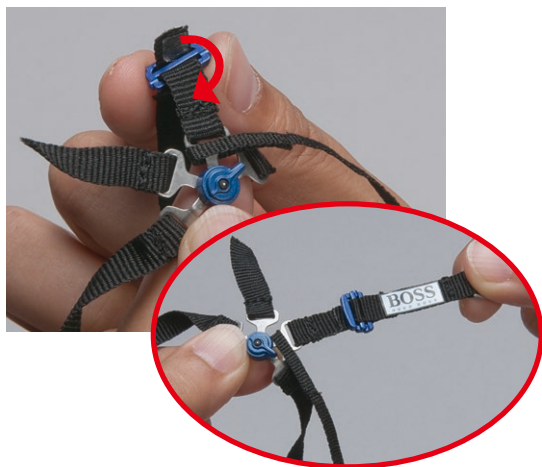
- 通したシートベルトA2の端を、そのままアジャスターの外側の穴に通す。



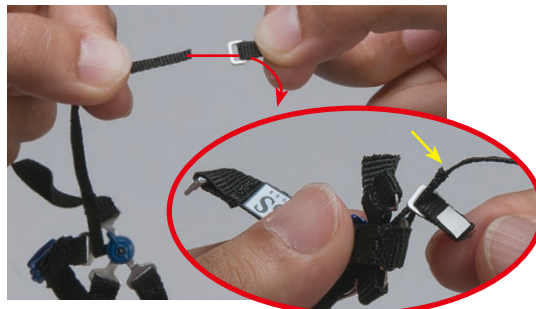
- 通したA2の端の裏側に5ミリの長さの5ミリ幅両面テープを貼って、剥離紙をはがす。



- A2を引き抜きながら、両面テープを貼った部分だけがベルトに貼れる程度の長さにして貼り合わせる。シートベルトA1(左)とシートベルトA2/3が接続された。



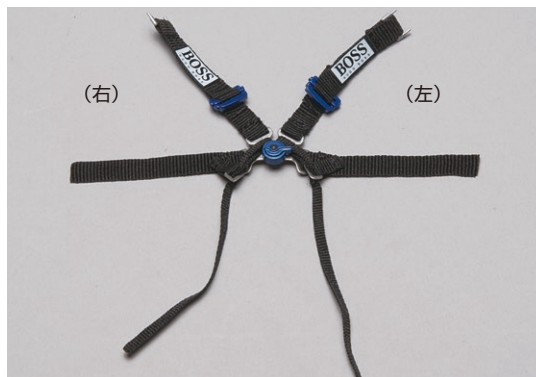
- 通しておいたシートベルトCの端を、シートベルトBの表側からサイドバックルに通し、シートベルトCの裏側の黄色い矢印で示した折り返し部分に注意しながら、根元付近までシートベルトCを通す。



- シートベルトBに貼った5ミリ幅両面テープの剥離紙をはがし、写真を参考にシートベルトBを左側のシートベルトA3の赤点線で示した部分に貼る。



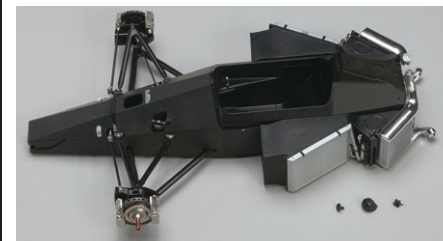
- 同様の作業をして、シートベルトの右側を組み立てる。



2

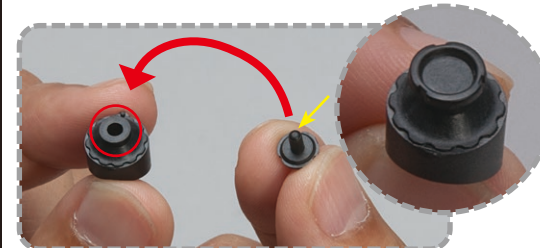
メインボディにフューエルフィルターバルブ、フューエルフィルターバルブハウジング、ギアリンケージベアリングハウジングを取り付ける

- 64号で使用したメインボディと64号で提供されたフューエルフィルターバルブ、フューエルフィルターバルブハウジング、ギアリンケージベアリングハウジングを用意する。

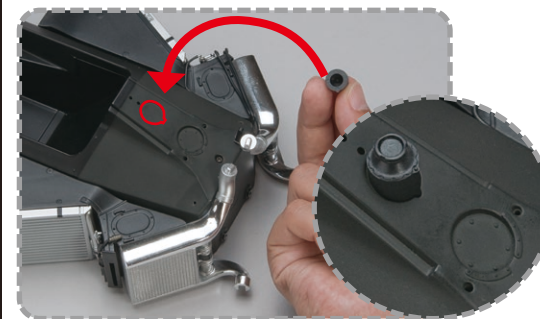


《仮組み》

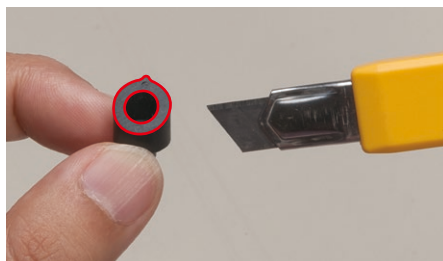
フューエルフィルターバルブハウジングの赤丸で示した穴に、フューエルフィルターバルブの黄色い矢印で示した突起を組み合わせ、接着面を確認する。



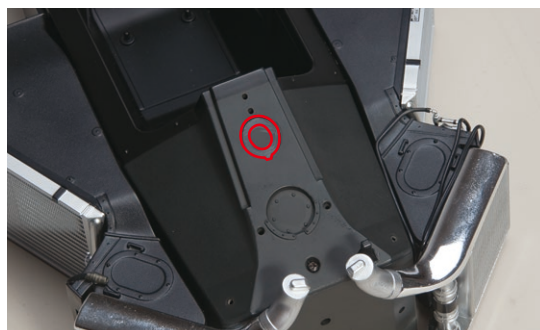
そのまま、それらをメインボディの赤枠で示した部分に組み合わせ、接着面を確認する。



● 赤枠で示したフューエルフィルターバルブハウジングのメインボディとの接着面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。

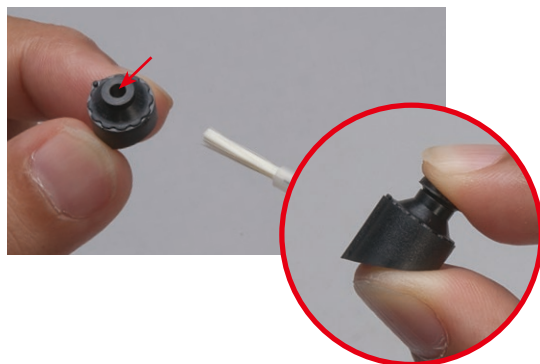


● メインボディの赤枠で示した接着面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



■ 塗装をはがす際に周りを傷つけないよう注意する。

● フューエルフィルターバルブハウジングの赤矢印で示した穴に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにフューエルフィルターバルブを差し込み、2~3分押さえる。



● フューエルフィルターバルブハウジングの塗装をはがした接着面の穴の内側の角(赤丸で示した部分)に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにメインボディに合わせて、2~3分押さえる。



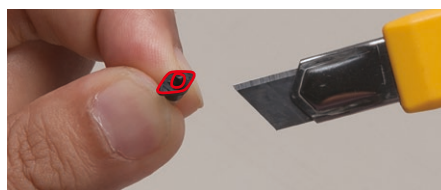
■ 穴の外側まで接着剤を塗るとはみだすので注意する。

《仮組み》

メインボディの赤丸で示した穴にギアリンクージベアリングハウジングの黄色い矢印で示した突起を差し込み、接着面を確認する。



● ギアリンクージベアリングハウジングの接着面が平面になるよう、カッターの刃のない部分などで整えておく。



● ギアリンクージベアリングハウジングの赤矢印で示した突起にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を少量塗り、仮組みしたようにメインボディに組み合わせて、2~3分押さえる。



● 1時間程度置いて、フューエルフィルターバルブハウジングとフューエルフィルターバルブ、ギアリンクージベアリングハウジングが完全に接着されたことを確認する。



今号の完成

シートベルトを組み立て、メインボディにフューエルフィルターバルブハウジングとフューエルフィルターバルブ、ギアリンクージベアリングハウジングが取り付けられた。



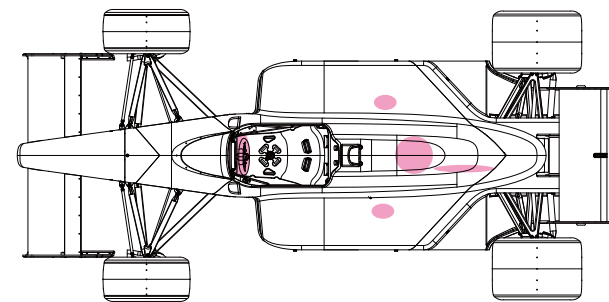
保管パーツ

今号で使用しなかったランナーパーツの⑦ データディスプレイと⑧ レブカウンターディスプレイ、④ 5ミリ幅両面テープとインストルメントパネルラベルの残りは、後の号で使用するまで、大切に保管しておこう。



Mission 66 エレクトリックシステムパーツを組み立てる

今号はエレクトリックシステムパーツを組み立て、ステアリングやエンジンブロックのディテールを再現していく。そのほかに、テレメーターユニットやCDIユニット、バッテリーにそれぞれケーブルを接続し、メインボディへ取り付ける準備をする。



今号のパーツ

① ステアリング ダイキャスト製



② シート



③ ワイヤーE (φ 1.0 × 400ミリ)



④ クリアワイヤー (φ 0.9 × 130ミリ)



※ ②はPVC(ポリ塩化ビニル)製

セナ専用のステアリングは数種類存在するため、日本GPで使用されたものは特定できなかった。取材ができたツインリンクもてぎ車両のステアリングをモデルに採用した。実車ではバックスキンを使用しているグリップ部分は塗装の色分けで、素材はダイキャスト製にすることでステアリングの質感を再現している。

◀MP4/4のステアリング(裏面)

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤・カッター・カットングマット
- ・ピンセット・定規・つまようじ

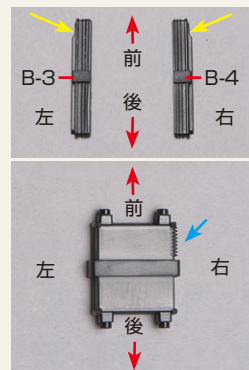
用意するもの

- ・バッテリーケーブル ※56号で提供
- ・コネクター×1 ※57号で使用するランナーパーツ
- ・エレクトリックシステムパーツA、B-1、B-2、B-3、B-4、B-5、B-6・CDIユニット・テレメーターユニット
- ・ワイヤーB、C、D ※63号で提供
- ・エンジンブロック ※64号で組み立て
- ・インストルメントパネルラベル ※65号で使用

ポイント

エレクトリックシステムパーツB-3、B-4とテレメーターユニットの左右の見分け方

●エレクトリックシステムパーツB-3、B-4には黄色い矢印のようなディテールがあり、写真のような向きで置いた時、B-3が左側面、B-4が右側面となる。また、テレメーターユニットは、後の号で右側のサイドポンツーンの上部に取り付けの際、青い矢印で示した部分が右(外側)になるように取り付ける。

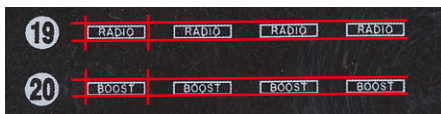


1 ステアリングにインストルメントパネルラベルを貼る

- 65号で使用したインストルメントパネルラベルを用意する。



- インストルメントパネルラベルのうち、①9 RADIOと②0 BOOSTを白い囲み線が残るように1つずつ切り抜く。



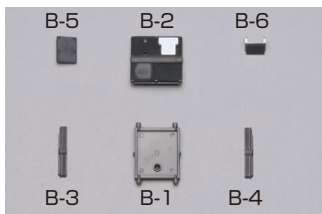
- ラベルははじめに平行線を全部に入れて、その後に垂直線を入れ、剥離紙は残すようにラベルのみを切る。1回で切ろうとせず、2~3回に分けて切るとよい。

- 実車の写真を参考に、左側の赤いボタンの下に①9 RADIO、右側の緑色のボタンの下に②0 BOOSTを貼る。



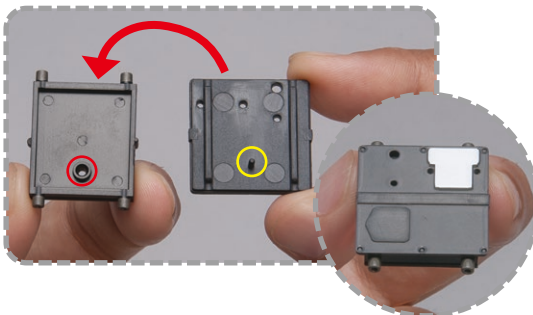
2 エレクトリックシステムパーツB-1、B-2、B-3、B-4、B-5、B-6を組み立てる

- 63号で提供されたエレクトリックシステムパーツB-1、B-2、B-3、B-4、B-5、B-6を用意する。

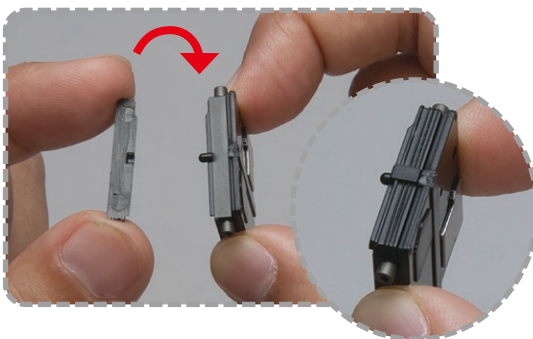


《仮組み》

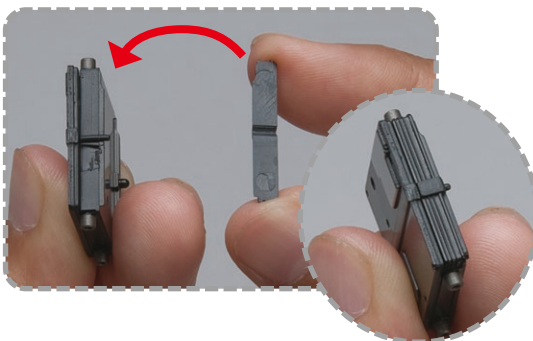
エレクトリックシステムパーツB-1の赤丸で示した穴に、B-2の黄色い丸で示した突起を組み合わせ、接着面を確認する。



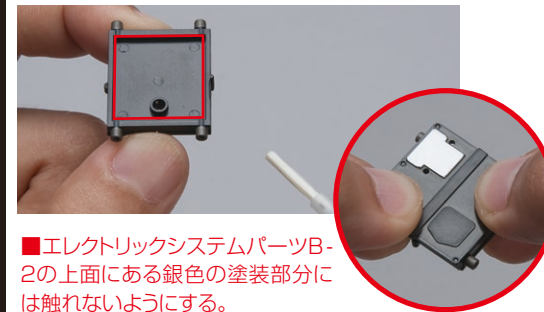
さらに、ポイントを参考にしながら、左側面にエレクトリックシステムパーツB-3を組み合わせ、接着面を確認する。



同様に、反対の右側面にエレクトリックシステムパーツB-4を組み合わせ、接着面を確認する。



- エレクトリックシステムパーツB-1の赤で示した接着面の内側半分程度に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにB-2を組み合わせ、2~3分押さえる。



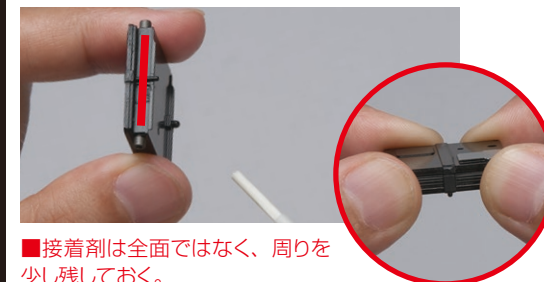
- エレクトリックシステムパーツB-2の上面にある銀色の塗装部分には触れないようにする。

- 赤で示したエレクトリックシステムパーツB-3との接着面に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにB-3を組み合わせ、2~3分押さえる。



- 接着剤は全面ではなく、周りを少し残しておく。

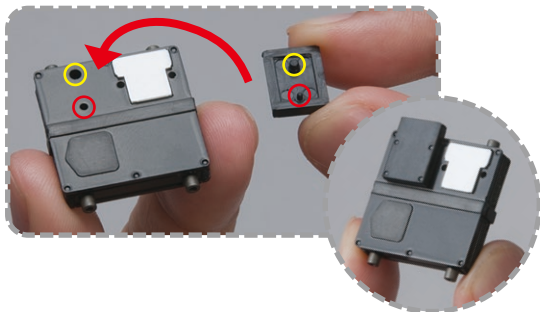
- 赤で示したエレクトリックシステムパーツB-4との接着面に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにB-4を組み合わせ、2~3分押さえる。



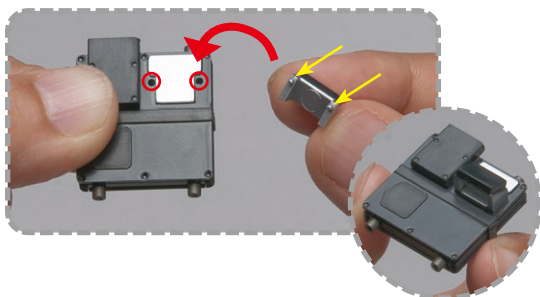
- 接着剤は全面ではなく、周りを少し残しておく。

《仮組み》

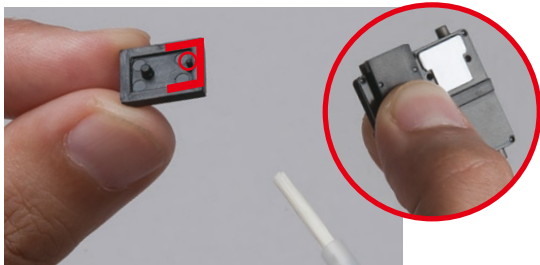
エレクトリックシステムパーツB-2の黄色い丸と赤丸で示した穴と、B-5の黄色い丸と赤丸で示した突起を、それぞれ同色で組み合わせ、接着面を確認する。



さらにエレクトリックシステムパーツB-2の赤丸で示した穴に、B-6の黄色い矢印で示した突起を組み合わせ、接着面を確認する。



● エレクトリックシステムパーツB-5は、赤丸で示した細い突起と、その周りの外周をコの字型にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにB-2に組み合わせ、2~3分押さえる。



● エレクトリックシステムパーツB-6は、赤枠で示した接着面全体にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を少量塗り、仮組みしたようにB-2に組み合わせ、2~3分押さえる。



● 1時間ほど置いて、完全に接着したことを確認する。エレクトリックシステムパーツBができた。



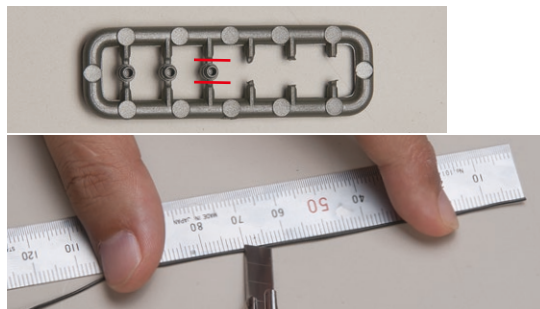
3

エンジンプロックとテレメーターユニットにワイヤーCを取り付ける

● 64号で組み立てたエンジンプロックと63号で提供されたテレメーターユニット、ワイヤーC、57号で使用したランナーパーツのコネクターを用意する。



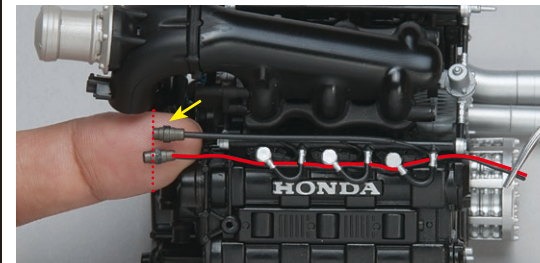
● ランナーパーツを裏返し、コネクターを赤線部分から切り離す。ワイヤーCは、70ミリの長さに切る。



● 70ミリの長さのワイヤーCの片方の端に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、コネクターの長い端を差し込んで1分ほど押さえる。



● コネクターを取り付けたワイヤーCをエンジンプロックの左側、カムカバーの上、フューエルホースの下を、写真の位置まで通す。

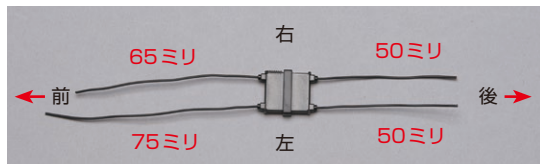


■ コネクターの位置は、赤点線で示したように、黄色い矢印で示したコネクタの半分くらい手前の位置にする。

● 黄色い矢印で示したワイヤーCの先端は、写真のようにオルタネーターベルトの手前で下に向け、さらに奥側に立ち消えるように折り曲げる。



● ワイヤーCを50ミリの長さ2本、65ミリの長さ1本、75ミリの長さ1本にカットし、それぞれ片方の端に瞬間接着剤を少量塗り、写真のようにテレメーターユニットの突起に取り付ける。

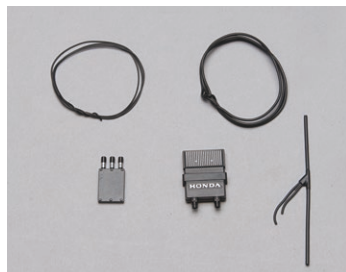


● エンジンブロックとテレメーターユニットにワイヤーCを取り付けた。

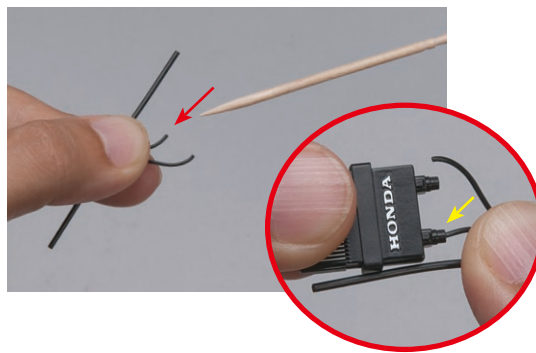


4 CDIユニットにバッテリーケーブルを、エレクトリックシステムパーツAにワイヤーBを、エレクトリックシステムパーツBにワイヤーDを取り付ける

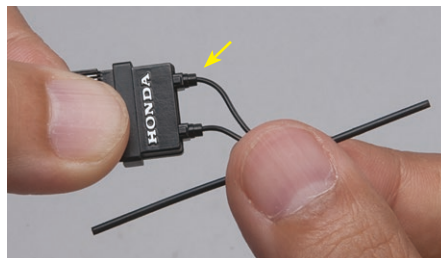
● 56号で提供されたバッテリーケーブル、63号で提供されたCDIユニット、エレクトリックシステムパーツA、ワイヤーB、ワイヤーDを用意する。



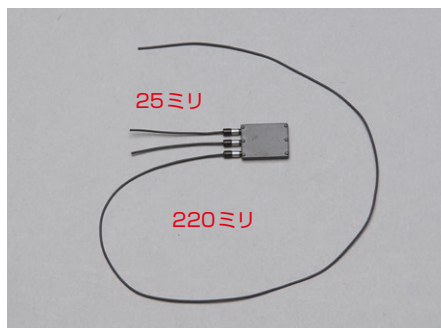
● バッテリーケーブルの赤矢印で示した部分に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、CDIユニットの黄色い矢印で示した部分に差し込み、1分ほど押さえる。



● 同様にバッテリーケーブルのもうひとつの先に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、CDIユニットの黄色い矢印で示した部分に差し込み、1分ほど押さえる。



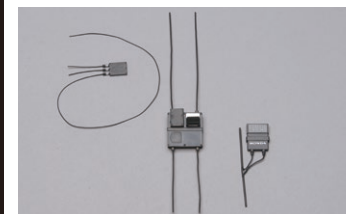
● ワイヤーBを25ミリの長さ2本、220ミリの長さ1本にカットし、それぞれ片方の端に瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、写真のようにエレクトリックシステムパーツAの突起に取り付ける。



● ワイヤーDを45ミリの長さ2本、76ミリの長さ2本にカットし、それぞれ片方の端に瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、写真のようにエレクトリックシステムパーツBの突起に取り付ける。



● CDIユニットにバッテリーケーブルを、エレクトリックシステムパーツAにワイヤーBを、エレクトリックシステムパーツBにワイヤーDを取り付けた。



今号の完成

ステアリングにインストールメントパネルラベルを貼り、エンジンブロックとテレメーターユニットにワイヤーCを、CDIユニットにバッテリーケーブルを、エレクトリックシステムパーツAとBにワイヤーBとDを取り付けた。



保管パーツ

今号で使用しなかった②シート、③ワイヤーE、④クリアワイヤーと、ランナーパーツのコネクタ、ワイヤーC、インストールメントパネルラベルの残りは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。

